

シャローム横浜通信 8月号

2022年(令和4年) 8月号(第264号)

暑い日が続いておりますが、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

今年は梅雨明けが非常に早かったため、急な猛暑に身体が追いつかず、熱中症で搬送された方が急増しています。NHKの報道によると、6月に熱中症で搬送された方は全国で15657人と過去最高を記録しました。また、新型コロナウイルスでは、オミクロン株変異型であるBA.5の感染拡大があり、全国の感染者が3万人を超えるなど、各地で感染者数が増え続けています。

新型コロナウイルスの感染対策として、マスクの着用は欠かせませんが、連日の暑さを考えますと、日常生活での使用方法は見直す必要性を強く感じております。暑い環境では体温調節のために血液の流れを多くすることで、体の表面から熱を放出します。その際に汗が出て、それが蒸発する時に発生する気化熱により身体を冷やします。息を吐くことも体内の熱を排出することになりますが、マスクを着用すると熱を出しにくくなってしまいます。

また、口の中の乾燥に気付きにくくなりますので、水分補給には

つながらず、脱水しやすくなります。特に身体の小さな子供たちや高齢者に対して注意が必要なので、厚生労働省からはマスクの着用に関する注意喚起が行われました。

しかし、現実には新型コロナウイルス感染者が増えていること、コロナ禍が3年目になり、マスク着用が習慣化したこと、自分だけがマスクを外すことへの罪悪感など、様々な要因で簡単にはいかない現実があります。

また、マスクを外している人を見ると、私自身も相手を非難したくなる気持ちになることがあります。このことを踏まえて、私たち自身ができるようにすべきかを立ち止まって考えることが大切だと考えています。

暑い日が続きますが、皆様の健康が支えられますようお祈りしております。

施設長 高原 信夫



ひまわりの挑戦

この春から、ひまわりでは色々な事に挑戦しています。

じゃがいもや、ひまわりを植えたり日本全国の美味しいものを大きな日本地図に書き込み(可能な限り作ったり食べたりも…)、シャローム特製梅シロップを漬け…。どれも、利用者の皆様が経験してこられたことを教えてくださったので実現できました。

成功することばかりではありませんが、これからもめげずに挑戦を続けていきたいと思っております。



認知症対応型デイサービス ひまわり
主任 宍道美知子



第264号
令和4年7月15日発行
(毎月1回 15日発行)

責任者：施設長 高原信夫
〒241-0802
横浜市旭区上川井町
1988
アドベンチスト福祉会
シャローム横浜

編集委員

小林・荒金・加藤
☎045-922-7333

<https://www.adventist-welfare.jp/yokohama/>



あったかいいね

ケアマネジメント シャローム横浜 「親が繋いだご縁」

これは私のご利用者から伺ったお話です。

親の介護が終わり、ひと安心する間もなく自分が要介護状態となった。介護者である夫が入院となり、私のショートステイ探しが始まる。緊急時の対応が取れない事で何処からも拒否。

そんな時、親の介護でお世話になった施設が受け入れて下さる事になった。理由を尋ねると、「以前親御様の施設利用時、ご家族の対応に助けられた。そんな方を一様に拒否できない」との事でした。亡くなった後でも親が繋いだご縁に自分が助けられ、いつまでも親に助けられていると感じられた出来事でした。親への感謝の気持ちをいつまでも大切にしたいと思います。

主任 飯田竜一郎



さかきばら すずむ
榎原 進



いいた りゅういちろう
飯田 竜一郎

7月3日、栄養課主催行事の釜戸を使って入居者の皆様にトウモロコシと枝豆を茹でておやつの時間に提供致しました。

トウモロコシも枝豆も美味しく茹で上がり、皆さんに大変喜ばれました。

課長 小寺秀偉



「真理はあなたがたに自由を得させる」 第172回 チャプレン 上前 至

1943年(昭和18)9月20日早朝、SDA教会(当時は安息日再臨教団)は北海道から台湾、南洋パラオまで当時、日本の統治下にあった広範囲にわたって特別高等警察による一斉検挙を受けた。教会が教える終末思想等が当時の天皇を中心とする国体に反する教えとして治安維持法違反の罪に問われ、指導的教役者、信徒等42名が捕らえられたのである。その結果4名程の獄中死も出た。今から79年前のことである。戦後、こうした事への反省も踏まえ、日本は平和憲法のもと、国民主権、信教の自由を含めた基本的人権の大切さを覚え、長く戦争のない国家を曲がりなりにも維持していく事ができたのである。米国やカナダに10年ほど滞在し、そこで経験した、止むを得ず国を捨ててこなければ生きられなかった多くの難民の人々を知る時、自分が日本に生まれ日本国籍を持っている事に本当に感謝した。これも日本が戦後、基本的人権を大切にする平和憲法を世界に宣言し歩んできた結果である故であると思わざるを得ない。

しかし、歴史は繰り返す。今年の7月2日、朝日新聞社説のタイトルは「香港返還 25年自由を奪った『中国化』」である。社説は言う「人々の自由が力づく

で奪われた。いかに中国が自らを正当化する弁を繰り返しても、この重大な事実を消し去ることはできない」と。全く同感である。そしてその社説は次の言葉で閉じられる。「香港人が感じる苦渋の思いを共有したい。いかに自由と民主が押しつぶされたように見えても、いつかは息を吹きかえす日が来る。そう信じて香港をわが事として考え続けたい」と。私の息子の嫁が台湾人であることを思う時、そしてまた、私が所属する教会が受けてきた経験を思うときに近々の中国の動静は決して他人事とは思えないのである。と同時に最後に私は訴えたい。キリストを我が主とするときこそ、そこに真理があり、まことの自由がそこに存在しているという事を。

「イエスは……言われた『もし、私の言葉の内に留まっておるなら、あなた方は本当に私の弟子なのである。また真理を知るであろう。そして真理はあなた方に自由をえさせるであろう。』」
ヨハネ 8:31,32 節

